

誕生！ 広島大学 マスコットキャラクター

広島大学に、「広島大学フェニックスマーク」と「マスコットキャラクター」が誕生する。

広島を拠点に活躍するデザイナーのカミガキヒロフミさん（有限会社STADESIGN代表）がデザインし、候補3案の中から教職員、学生による学内投票で決定した。

フェニックスマークのデザインコンセプトは、広島大学のシンボル、フェニックスの葉が幾多の困難を乗り越え大きく育ち、不死鳥フェニックスのようにたくましく大空へ羽ばたいていく姿を学生の若い力に重ね合わせてイメージしたもの。

また、マスコットキャラクターはフェニックスマークをデフォルメしたもので、現在、学内でキャラクターのニックネームを募集している。決定後は部活動やイベント広報、グッズなどに幅広く活用していく。

ニックネーム応募についての詳細は、いろは」を参照。応募締め切りは、2月9日（日）17時。



国際連携専攻（ジョイント・ディグリー）
プログラム」を設置

がんゲノム医療拠点病院としての体制整備

令和元年6月に「がんゲノム医療」が保険適用となり、9月には全国で34施設が指定された「がんゲノム医療拠点病院」に本院が選ばれた。新しいがん診療体制の構築ならびに人材育成（令和3年度からの学生受入れを目標して「認定遺伝カウンセラー養成コース」の設置を申請予定）において重要な役割を担う。

「がんゲノム医療」では、手術で切除したり生検で採取したがん組織から遺伝子を抽出し、最新の遺伝子解析装置（次世代シーケンサー）で1000〜300種類の遺伝子の変化を解析する「がん遺伝子パネル検査」によって、どの遺伝子に変化があるかを調べる。この検査結果は非常に複雑なので、エキスパートパネルという専門家の検討会で話し合い、どの遺伝子を治療標的にするのがよいのか、どの施設でその治療を受けることができるかなどを調べ、それらの情報をレポートにまとめて主治医に報告する。主治医はそのレポートをもとに、患者さんにあつた治療の情報を提供する。

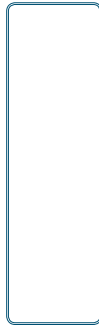
令和2年1月に設置した遺伝子診療科では、診療科長をはじめ、認定遺伝カウンセラー2人、

コーディネーター1人、情報管理部門と事務の4人が専任で対応する。

また、小児科、産婦人科、神経内科、小児外科、乳腺外科、耳鼻咽喉科などの遺伝子診療の専門知識を持つ臨床遺伝専門医が併任で診療を行っている。

これまでの遺伝子診療部では、出生前診断、先天異常、神経疾患などに対応してきたが、次世代シーケンサーの時代となり、未診断疾患イニシアチブやがんゲノム医療、遺伝性腫瘍などの新しいゲノム医療の領域も対象として拡大していることにかんがみ、幅広く診療に取り組んでいく。

キャンパス内全面禁煙
本年1月から実施中



● 締結した協定

